

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

共同利用施設運営部門は、本学における研究の遂行を支援するための学内の共同利用の研究施設が、臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤的役割を果たすための統括的な活動を行っています。時代や研究会を取り巻く環境の変化に依存して研究目的・内容は変遷しており、施設の用途や使命も流れに常に対応させなければならないと考えられます。また、本部門は毛呂山キャンパス中央研究施設と川越キャンパスの総合医療センター・研究部等と連携し、埼玉医大の全研究者への支援についても検討しています。

【本年度の活動】

- ①前年度に毛呂山キャンパス・中央研究施設実験動物部門において、一階洗浄滅菌室作業環境が高温多湿であるため職員の作業中の熱中症等が危惧されたことに伴い、松下祥医学研究センター長ならびに産業医の先生方にご尽力を頂き、空調設備の改善に関する要望書を提出し、ご検討頂いておりましたが、本年3月には整備が完成し、夏期における作業環境が大幅に改善されました。
- ②以前から松下祥医学研究センター長により企画されていましたが、以下の1)～3) 事実に鑑みて共同利用実験室の開設が急務と考えられたこと、また、本学でもこのようなシステムを試行する時期が来ていると判断されたことから、3月8日にセンター長と本部門とで共同利用実験室に関する企画書を提出致しました。
 - 1) 科研費を持って埼玉医科大学に赴任して来られる若手を中心に、使い切れなかった科研費を返納する事態が生じ、実験場所が確保できず研究の遂行が出来なかった例が複数あることが判明した。
 - 2) 最低限の実験室の開設のために必要な備品は、各基本学科に中古品の供出により調達可能と予想された。
 - 3) 本学の中央研究施設は「測定室」の機能を持つが、実験スペースはそれぞれの基本学科やグループが占有しているものしか無く1)を生む結果となる。米国では30年以上前から、また日本の先進的の大学では15年ほど前から、占有を許さない共同利用実験室の整備が進み、円滑に利用されている例が多い。

結果として、第2研究棟3階に当該共同実験室を設置する運びとなり、学内に中古研究機器の供出を呼びかけたところ、多数の協力が得られ整備が進められました。また、利用規程、利用申請書類等も整えられましたが、東日本大震災に伴う電力量の低下により節電を優先させる必要性から9月の開設予定を延期し、現在実験室内部の整備を進めながら、新たな開設時期について検討しています。

【研究機器の整備等】

- ①性能劣化により買い替え申請が提出されていた透過型電子顕微鏡〔日本電子：JEM-1400 (HC-FC)〕に関して22年度私学助成金・設備整備助成に申請し採択されました。この装置は、毛呂山キャンパス・中央研究施設形態部門に設置され、今年度より運用が開始されています。また、RI施設の液体シンチレーションカウンターも老朽化に伴い、買い替えて頂ける運びとなっています。

【テクニカルセミナーの開催等】

- ① 2011/12/01 16:30～ : 全自動細胞分離装置『RoboSep』装置及び活用事例
- ② 2011/11/17 16:00～ : 集積流体回路を用いた遺伝子解析技術
- ③ 2011/09/28 16:00～ : 臨床プロテオーム解析の最新技術
- ④ 2011/07/07 10:00-17:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・第2回】
- ⑤ 2011/07/06 10:00-15:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・第1回】
- ⑥ 2011/07/06 14:00-15:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・セミナー形式】
- ⑦ 2011/01/27 16:00～ : 表面プラズモン共鳴 (SPR) 装置テクニカルセミナー (今さら聞けない 相互作用検出の初歩)

【ホームページ等】

本部門の関わるホームページは、<http://smswww.kyouri/index.html> です。本学共同利用施設のあらゆる箇所にリンクしています。